

〔No. 354号〕

1月

令和3年
〔2021年〕

ふたかわ

呉市築地町3番1号

二川まちづくりセンター

TEL 21-3961
FAX 25-8821

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

今月も健康に気をつけて、活動をしてくださいますようお願いいたします。



二川まちづくりセンターにかわいい訪問者

10月30日（金）呉市立港町小学校2年生の子供たちが、生活科の学習「もっとなかよくまちたんけん」で二川まちづくりセンターへ見学に来てくれました。館長に質問したり館内を見学したりして、「まちづくりセンターは、地域の方々の学びの手助けをしていること」等を学習しました。子供たちの明るい笑顔で、コロナ禍が吹き飛んだ1日でした。大きくなったら、二川まちづくりセンターをどんどん利用してくださいね。もちろん児童絵画は今でも参加することができます。



二川まちづくりセンター

年末年始の休館日

12月28日（月）臨時休館日

12月29日（火）～1月3日（日）

4月利用分の受付

1月4日（月）8：30～



“ コロナ負けんぞ大会を開催しました ”

（二川グランドゴルフクラブ様より情報提供を頂きました）

2020年は、オリンピックの年と楽しみにしていましたが、一変してコロナ コロナの一年となりました。二川GGCも、花見、納涼会、忘年会とすべての行事が中止となってしまいました。 “コロナなんかには負けんぞ” と、11月3日（祝）秋空の下【コロナ負けんぞ大会】を開催しました。最高齢88歳、最低年齢でも70歳。会員46名の内44名が参加しました。1位から5位の入賞「当月賞」「飛び賞」「BB賞」などの各賞を目指したり、洗剤の箱を的にした「ホールインワンゲーム」等をして大いに盛り上がりました。

足、腰、膝、痛い所はたくさんありますが、「そんなの関係ないグランドゴルフができるって幸せなことじゃね。」「ここに来ると一日が始まらんわ。」とおしゃべりをしながら、大声で笑い、みんなでグランドゴルフを日々楽しんでいきます。

“ 花壇 PART2 ”

二川まちづくりセンター正面右側に「明るいまちづくりセンターづくり」の一環として、パンジーなどで「花壇」を造りました。

このたびは、二川まちづくり委員会のご協力を得て、造ることができました。

建物はかなり古くなっておりますが、かわいい花を見ていただき、気持ちよく活動していただければ幸いです。また、環境整備につかまして、温かい言葉がけをしていただきましてありがとうございます。これからも、工夫・改善していきたいと思っております。



「5歳娘から深い愛情」 安芸郡在住 27歳主婦

(冒頭一部省略) 私には5歳の娘がいる。絵本を読み聞かせていると、「怒る」と「泣く」ならどちらが嫌か、という話になった。娘はすかさず「泣く方が嫌」と答えた。理由を聞くと「お母さんが泣くのが一番嫌」らしい。私は驚いた。自分ではなく、母親の姿を思い浮かべていることに。自分が泣いたり怒ったりするよりも、母親の涙は苦しいものだろう。私は、子供の深い愛情に気づいた。私が子供を育てているような気がしていたのに、子供によって成長させられている自分がある。子育ては確かに大変だ。身に染みてそう感じる。でも、尊い存在が愛を必死に注いでいると感じていたい。こちらも今までよりもたくさん笑ってたくさん愛を注ごう。育児は、「育自」でもある。

令和2年10月26日 中国新聞 「広場」より

【 有名人の言葉より 】

く らく たね らく く たね し
「苦は楽の種、 楽は苦の種と知るべし」

とくがわ みつくに みつくにへきしよ
徳川 光圀 「光圀壁書」

「つらく苦しいことがあっても、それを乗り越えようと努力していけば、やがて喜びがしばしの安息を得ることができます。また、楽しいことが永遠に続くことはありません。

つまり、苦と楽は背中合わせなのです。もし苦が目の前に現れたときは、やがてやってくる楽しみを信じて、自ら挑んでいくことが大切なのです。」と光圀さんは書いておられます。



ともすれば不平や不満ばかり言っでは、楽ばかり求めてしまう私ですが、日々のことをきちんとやりとげて、自らを戒めていかなければならないと今更のように感じました。コロナ禍を乗り越えて、やがてやってくる安全・安心な日常が戻ってくるまで、皆でがんばっていきましょう。